



Interplay[®] Sphere

ユニバーサル・コネクティビティ: 場所を選ばないニュース制作

ユニバーサル・コネクティビティ
Avid Interplay Sphere

ニュースのリアルタイム性への視聴者のニーズは、制作者側に新しい制作方法と配信方法について検討することを迫っています。しかし、個人としても企業としても「新しい挑戦の時」とされるこの時期に、新しいソリューションを見つけ、ワークフローを変更するのは、日々の「よりよいコンテンツを、より早く」というプレッシャーに阻まれ、なかなか実現できないのが現状です。

この挑戦を勝ち残るには、ファイルベースに集中化しているワークフローを、クラウドが可能なアセットベースのワークフローに移行していく必要があります。この新しいワークフローは、素晴らしいコンテンツを、いつでもどこでも制作する可能性を、大きく広げます。

ファイルベースワークフローを越えて

アセットベース・ワークフローは、これまでのファイルベース・ワークフローのメタデータの活用範囲を拡張することによって構成され、システム相互のやり取りやワークフローの自動化、生産効率の向上を新たな次元へ引き上げます。無数のプラットフォームから取り込まれる様々な種類のソースの配信には、関連するメタデータへのアクセス性が大きなカギとなり、コンテンツ作成のプロセスには、アセットベース・ワークフローがとても重要です。複雑さを増し、変化を続ける現状に必要なスピードとスケールを提供できるのは、アセットベース・ワークフローだけなのです。メディアをより効率的に、より収益性高く管理するための方法、より品質の高いコンテンツをより速く配信するための方法が、ビジネスを最高の形で成功させるためのカギとなります。

クラウドへ

メディア制作は、違う場所にいる、より多くのスタッフが、メディアやメタデータに対して、同時に一貫性のあるリアルタイムアクセスを行うことを可能にするために、分散化される必要があります。報道の現場においては、クラウド技術はアセットをより高度に管理することを可能にし、あらゆる制作工程間において、事実上無制限のインタラクティビティを実現します。

近年、メディア・エンターテインメント業界に対してOvumが実施した調査によると、クラウドは新しい制作と配信の方法を可能にするものとして認識されており、75%以上の企業が「将来のクラウド展開を検討している」と回答しています。プロデューサーにとっては、クラウドは新しい制作モデルを可能にするものであり、新しい協調方法を生み出す技術です。クラウドにおいては、必要な時に必要な人材がアクセスできればよく、より短いスケジュールで制作を可能にするものだからです。

クラウド環境では、スタッフ一人ひとりが、どこにいても、編集室と同じツールとインターフェースでコンテンツにアクセスし、高品質な作品を生み出すことによって、アセットベース・ワークフローを加速させます。メディアのアクセス、管理、使用方法をより効率的にすることで、視聴者のニーズに合わせたコンテンツや配信方法に対して、より素早い対応が可能になります。

ユニバーサル・コネクティビティ Avid Interplay Sphere

「ユニバーサル・コネクティビティ」の 新しい世界

Avid Interplay Sphereは、アセットベース・ワークフローとクラウド技術で、かつてない「ユニバーサル・コネクティビティ」の世界を拓きます。

ユニバーサル・コネクティビティでは、制作環境が仮想化されます。プロデューサーやリポーターは、現場から、あらゆるデジタルメディア（素材、グラフィック、アニメーション、オーディオ等）にすぐにアクセスできます。これにより、ニュース制作のワークフローが簡素化され、最高のストーリーを作る自由が生まれます。

Avid Interplay Sphereは、クラウド技術を使って、さらにスムーズなワークフローで、よりよいコンテンツをより速く放送するための、一つの手段です。Avid Media ComposerやNewsCutterは、現場で撮影した素材や局にある素材のアップロード／ダウンロードを、編集作業のバックグラウンドで実行します。これにより、全体の編集スピードはさらに早くなります。Sphereを使用しているすべてのエディターは、編集室にある素材にいつでもアクセスできます。

Sphere環境では、オートメーションと作業の並行化により、現場に必要な機材へのコストが劇的に抑えられます。レポーターはカメラとラップトップ、そして、ネットワーク接続だけあれば、どこでも作業ができることとなります。コーヒーショップにいるジャーナリストも、編集室にいるのと同じ制作環境で、同じ素材とメタデータに対してリアルタイムにアクセスし、作業ができます。

Sphereは番組のレーティングや視聴率、最終的には企業の収益そのものにも貢献します。例えば、現地からのレポートには中継車が必要でしょう。この中継車が使う素材を送る費用が削減できれば、大きな節約になります。中継車を維持するためにかかるコストは、通常、5年間で\$950,000 (US)程度です。Sphereを導入することにより、この費用を削減することができ、既存の設備はそのままに、より高品質なコンテンツを、必要な時に必要な場所に、より早く届けることができるようになります。

Interplay Sphereの特長:

世界中どこでも - Interplay Productionアセットで、グローバルワークフロー

安全に - プライベートクラウド環境で操作

並行作業 - 編集中に現場素材をアップロード

作業を簡素化 - 必要なのはカメラ1台、ラップトップ、4GまたはWiFi接続だけ

ユニバーサル・コネクティビティ
Avid Interplay Sphere

Sphere環境下のアプリケーションは、ニュース制作に大きな変革をもたらします。例えば、いろいろな場所で行われているスポーツの試合の映像を、どこからでも同時に使うことができれば、スポーツ報道の新しい形を作り出すこともできるでしょう。Sphere環境においては、ドキュメント、ライブ、大きなイベントの番組のプロデューサーは、世界中のいたるところにいる、才能のあるスタッフとともに、番組制作を行うことができます。

最後に

クラウドが可能にする、アセットベースのワークフローでは、報道制作はよりシンプルに、より経済的にできます。番組制作や配信の方法を見直し、ビジネスをより良い方向に向かわせる新しいソリューションを、是非ご検討ください。



www.avid.com/jp

アビッド テクノロジー株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館ビル4F

©2012 Avid Technology, Inc. All rights reserved. Avid Technology, Inc. 無断複写・転載を禁じます。プロモーション、製品の機能、仕様、システム要件、および販売形態は、予告なく変更されることがあります。Avid、Avid ロゴ、NewsCutter、Interplayは、アメリカ合衆国あるいはその他の国におけるAvid Technology, Inc.やその子会社の登録商標または商標です。「Interplay」の名称はInterplay Entertainment Corp.の許可を得て使用しており、同社はAvid製品に対してなんら責任を負うところのものではありません。そのほか本書に記載されている商標はすべて、各所有者に帰属します。

AS02WP0412

